

人権が尊重される社会の実現に向けて

問／人権庶務課 内2362 ☎463-1738

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。(後略)」

(世界人権宣言第1条から)

人権デー 12月10日(土)

人権週間 12月4日(日)～10日(土)



世界人権宣言が国際連合総会で採択された昭和23年12月10日を記念して、わが国では、毎年12月4日から10日までを人権週間(埼玉県では、人権尊重社会をめざす県民運動強調週間)と定めています。

人権とは、かけがえのない、ひとりの人間として尊重され、幸せに生きる権利であり、誰もが、自由に平等に生きることができる基本的な権利です。

しかし、現実には、差別を受け、悩み苦しんでいる人々がいます。

差別をなくすためには、自分自身の心の中に差別を生み出す「偏見」、あるいは「差別心」がないかを見つめ直し、自分の権利を主張するばかりではなく、思いやりの精神を忘れずに、他人の人権も尊重し、お互いに相手の立場を考えて、豊かな人間関係をつくるのが大切です。

人権文集「たいよう」は、学校における人権教育の推進のために、市内各小・中学校の児童生徒が書いた人権に関する作文の中から、一部をまとめたものです。その中の中学3年生がつづった「やさしさの種をまく」をご紹介します。

「やさしさの種をまく」

中学3年生

わたしは、人権作文を通して、いじめや差別は他人事ではなく、多くの人が考えるべきことだということに気づきました。

毎年、友だちが書いた人権作文や、意見を読むと、いじめや差別はよくないと書いている人が、ほとんどです。しかし、その一方で、いじめを傍観している人たちは、思いきってとめようとしないうえ、いじめや差別は、なくなるという人もいます。

わたしは、起きていじめや、差別をよくないと言うのではなくて、人を暴力や言葉で攻撃して、傷つけることが、いじめや差別につながるということに、一人でも多くの人が気づくべきだと思います。多くの人が気づくことができれば、いじめや差別は減ると思います。

いじめや差別をなくすためには、どうしたらいいか、わたしは考えました。

いじめや差別が起こる原因は、主に二つあると思います。一つは、偏見。もう一つは、勝手な思いこみ。

わたしは、ハーフなので、小さい頃はよく、嫌がらせを受けたり、悪口を言われることがありました。その原因はやはり、偏見にあったし、勝手な思いこみで、ひどいことをされたことがあったので、いじめや差別が起こる原因は、その二つだと思いました。

何かを言われたり、されたときわたしはいつも思いました。偏見や思いこみをせずに、接することができれば、いじめや差別は起こらないのにと。さらに、わたしは人と接するうえで、とても重要だと思うことは、相手思いやること、大切にすることだと思います。

ひとりが、思いやり、大切にすることで接することで、またひとり、もうひとり…というように、みんなに広がってほしいと思います。また、思いやり、大切にすることがやさしい心にかかわって、みんなが「やさしさの種」をまくことができれば、いいなと思います。そして、「やさしさの種」をみんなと共有することができれば、いじめや差別がなくなると思います。

日本だけでなく、世界でもいじめや差別が起きているのは、とても悲しいです。

もっと、深刻で悲しいことは、わたしと同じくらいの年齢の子どもが、学校に行けず、武器をもって戦っていることや、人権が守られていなくて、ひどい差別にあっていることです。わたしは、ニュースやテレビ番組で特集されているのを見ると、悲しくなります。

わたしが大人になったとき、どこかの国で戦争や内紛が起きていたら、その国や地域へ行って、そこに住む子どもたちのために救援活動をしたと思っています。

そのとき、ひとりでも多くの子どもに、「やさしさの種」をまくことを教えて、少しずつ大きな力にかえて、いじめや差別、争いがなくなるようがんばりたいです。

最後に、わたしたちが生きている現代に、さまざまな問題が起きています。その問題が起こるのは、人権が守られていないからこそ、起きるのだと思います。

そして、その問題を減らし、なくしていくためには、多くの人が、人権とは何かを考えることが、必要だと思いました。

(人権文集「たいよう」平成23年3月発行第28集より)

